

春風秋霜

5月号

平成28年5月2日

島田市教育委員会だより
教育長 濱田和彦

春風をもって人に接し、秋霜をもって自らを慎む 佐藤一斎

1 猿舞を見て

静岡県指定の無形文化財になっている東光寺の猿舞が4月9日（土）に行われました。神事の後に天狗に先導され神輿が急な坂道を降りる様子や猿の面を被った子供の舞、紙垂のついた榊の小枝を取り合う様子など、興味深い儀式（祭り）でした。このような伝統文化を継承する上での課題は、子供の減少をはじめとした後継者不足です。

六合小学校では、4年生約90人が見学に来ていました。素晴らしい伝統文化を一地区のものと思わず、小学校として大切にし、見学する姿勢には感謝です。移動のためのバスの手配や土曜日なので勤務の問題などと、見学するための障害はあったと思いますが、集中して見学する子供の様子や、榊の小枝を大事そうに持って帰る子供の様子を見ると、見学の価値はあったと思います。

金谷茶まつりにも多くの子どもたちが参加していました。また、今年度は諏訪原城跡を見学予定の学校が多いと聞いています。地域の文化や遺産に触れることは、今年度市教委が推進している地育ともつながります。

今年は、島田大祭の年です。地踊りなどに参加したり、見学したりする子供が増えるというと思います。子供たちが参加しやすい支援をお願いします。また、中学校では5月に1年生の地域探訪が行われる学校があると思います。見学の視点を明確にし、質の高い探訪にしていきたいと思います。島田を理解し、島田を好きな子供を増やしていきましょう。



2 島田市博物館の活用を

博物館では企画展や講座だけでなく、出前講座やギャラリートークなど積極的な市民サービスに努めています。いくつかの小学校では縄文・弥生時代の学習に博物館の学芸員を招いて授業を行います。また、5月5日は、博物館で『こどもの日の集い』が**無料開催**されます。

版画多色刷り体験、機織体験（親子）、昭和の遊び体験（竹とんぼ・フラフープ・ダンボールの秘密基地など）といった様々な楽しい活動が用意されています。この日以外にも、小学生対象わくわくアトリエ（毎月第2日曜日）、ちょっと昔のいろいろ体験（毎月第3日曜日）、おもちゃ病院（毎月第4日曜日）が開催されます。

このような体験を通して、子供たちが一人でも多く博物館に足を運び、歴史をはじめとした島田の良さに気付いてくれたらと思います。子供たちの興味を広げるため、企画の紹介をお願いします。詳しくは、博物館まで。（博物館 Tel 37-1000）

3 防災意識について

熊本県では大地震による大きな被害が発生し、連日の捜索活動や復旧活動が行われています。島田市からも毛布などの物資が送られ、医師団の派遣も行われました。しかし、報道される避難所で生活している被災者の様子を見ると、支援が全ての人に行き渡るまでには、時間が掛かると思います。

今回の地震の特徴は、東日本大地震のような津波被害が無いものの、土砂崩れが大きいこ

とや車で生活する被災者の多いことです。東海沖の地震が発生した時の島田市の被害と重なるところが多いと思います。大きな災害が起きるたびに、自分の身に起きた場合を考え、様々な想定をすることが大切だと思います。多様な想定が、実際に地震が発生した時の的確な決断につながると思います。

4 教育委員の学校訪問がスタートしました

4月22日（金）に島二小と島三小を訪問しました。両校とも特色ある学校経営を行っていることと、その方針が全職員に意識されていることに感心させられました。

島二小では、自分を高めるための厳しさを子供に求め、実感と価値付けを大切にしています。島三小では、『やるべきことを徹底することで、やることを当たり前にする』を1学期で集中して行っていました。両校に共通することは、子供に寄り添うことと見える化を大切にしていることです。

全職員が共通した意識を持って指導に当たれば、子供たちの落ち着きや意欲が増します。子供たちが教え合う姿や友達の発言に耳を傾ける姿に、教師の日常の丁寧な指導の成果を見ることができました。学校訪問では、子供の姿に、笑顔が絶えない楽しい時間を過ごすことができました。

5 子供を中心にできる工夫を

島二小と島四小の新しくなった放課後児童クラブを見学しました。両校とも、校舎内に放課後児童クラブを拡張しています。島二小では、学校側の積極的な提案により、予定の倍近いスペースを確保することができました。島四小では、施設工事ではなく、子供への指導で課題に対応し、低予算で開設することができました。両校とも、自校の子供や親の生活を守るという視点から、できない理由を探すより、できる工夫をさせていただいたことに感謝しています。

本年度は、放課後児童クラブの待機児童数が120人を超す状況が予想されました。働かなくては生活できない保護者の増加が原因だと思います。保護者の置かれている厳しい状況を考えると、保護者が安心して働くことができる放課後児童クラブの存在は大きく、待機児童を無くすことは、学校としても重要な課題だと思います。

また、放課後の子供たちの生活の充実という面から考えると、放課後児童クラブと積極的な連携も必要だと思います。それは、放課後児童クラブが放課後学習室や多様な体験を提供する場となることも可能だからです。どんな施策もメリットを生かす工夫が求められます。

肘かけ椅子

高橋 典子 教育委員

2年に渡り、拡張工事の為、終日片側通行を余儀なくされていた川根町家山と身成にかかる駿遠橋の工事が終わりました。制限の解除とともに広くなった橋からは、桜の次にやってきた新緑の山々の美しい風景が見渡せます。そして、どこからともなく香る新茶のかおり。車で通り過ぎるのでは味わえないこの感じを、朝夕に歩いて渡る小中学生のように体験してみたいかがでしょうか。

家山側から歩けば、真下に大井川鉄道の線路があり、時間を合わせればSLの汽笛と煙に包まれます。今年も6月から人気者のトーマスが走り出すようです。桜が有名な川根ですが、駿遠橋の真ん中あたりで大井川の流れを眼下に、小学校5年生のときの教科書にのっていた、詩人小野十三郎さんの『山頂から』を思い浮かべながら、新緑の山々を見渡して、里山風景を楽しんでいただきたいと思うのです。